

令和8年度 第1回仙台市泉区区民協働まちづくり事業評価委員会概要

開 催 日 令和8年5月28日（木）

出席委員 品田委員長、田中副委員長、草委員、岩佐委員、大久保委員

議 事 令和7年度区民協働まちづくり事業企画事業の事後評価

【事業報告】

区民協働まちづくり事業に関する要綱（平成14年3月25日市長決裁）第6条第2項第2号の規定による事後評価のため、令和7年度企画事業実施団体より実績報告書の通り報告。

【質疑応答】 [Q：質問 A：回答]

・将監沼ふれあい事業

Q：将監の方だけでなく地域内外からも将監沼に訪れていると思うが、団体としてはどう思っているか。

A：大歓迎に思う。以前は四国や九州の方も会員になっていたが、現在は賛助会員がかなり減ってしまっている。仙台市からの助成金のほかに財源をどうするか課題意識を持っており、各町内会にも働きかけているところ。

Q：財源が大変なのは当初から見込まれていたことではないか。会員が減ることや、資金が減ることは想定外か。仙台市内に約1,850か所の公園があり、泉区内に約410か所の公園がある中で、ここだけがクローズアップされるのはどうか。他地域から訪れる方から、少しでも賛助してもらえるよう考えていかないと、実施団体としても大変に思う。

A：会員が減っている状況ではあるが、木の伐採や草刈り、ゴミ拾いはボランティアや企業の方々にも協力いただけている。資金繰りの工夫として、協力いただく方には申し訳ないが、ボランティア保険を自ら加入してほしいと呼び掛けている。桜祭りや音楽コンサートの際は、企業に呼び掛けて協賛をいただきながら実施している状況。

・いずみ朝市

Q：泉区役所の建て替えの影響で参加者数が減ったのか。実施回数が減ったからか。

A：場所というよりも、回数の減少や暑さの影響で客足が伸びなかったと考えている。昨年度は選挙もあり、実施回数がR6年度の16回からR7年度は15回に減った。

Q：出店者の減少の理由や、出店者を増やすための働きかけはあるか。

A：出店者の減少の理由としては、農家の後継ぎ不足が関係している。出店者を増やす手立てとして、長命ヶ丘のランチ仙台にて開催されるファーマーズマーケットの出店者にお声掛けをしたが、まだ出店にはつながっていない状況。

Q：助成金がなくとも事業の継続は可能か。

A：助成金無しでの事業継続は困難。出店者よりいただく出店料の値上げも考えてはいるが、出店者側の肥料等の価格高騰の兼ね合いもあり、現実的に値上げは厳しい状況。

・ニュースポーツフェスティバル

Q：暑さ対策で設置したスポットクーラーは借りたものか。

A：会場の体育館から借用したもの。

Q：事業費と助成金の差額はどこから賄っているのか。

A：泉区のマイタウン協議会より負担金としていただいている。

Q：「世代を超えた」とは具体的にどのような世代か。

A：幼稚園から小学校低学年を連れた親子の参加が多い。

Q：助成金がなかったら事業実施は可能か。

A：景品代やお菓子代に支出しており、困難である。

Q：参加費を徴収しようという動きにはなっていないか。

A：現状はなっていない。

Q：事業費と参加人数から算出すると、一人 600 円くらい参加費を徴収すれば可能と思うので、検討いただきたい。

・泉ヶ岳利活用推進事業

Q：クマ対策は何か講じているか。

A：登山する前に爆竹を鳴らし、登山中は鈴やホイッスルを携行しているほか、各行動班にクマ撃退スプレーを配置している。参加者が多く、にぎわっており、クマが近づきにくい状況ではある。

Q：実際に協働した企業・団体などがあれば教えてほしい。

A：芳の平の植樹（泉ヶ岳の環境整備）にあたり、イオン(株)やジブラルタ生命保険(株)などの協力もいただいている。

・泉中央美化推進事業

Q：泉中央は人が行き交う場所であり必要な活動であるし、間接的に防犯にもつながっていると思う。一斉清掃にはどのくらいの団体数が参加しているか。

A：一斉清掃は約 50 団体、平均約 700 名（多いときで約 900 名）参加いただいている。その中でも仙台商業高校から約 250 名に参加いただいている。

Q：緑化活動で植えている花の種類は、毎年変えているのか。

A：夏はヴェゴニア、秋はヴィオラを植えている。様々な種類を試したが、育成のしやすさを踏まえ、最近は統一している。

Q：植えている株数は、毎年変えているか。

A：場所や花の種類によって変わる。

Q：株数の変動がないと、費用も変動ないのか。

A：費用は物価高騰もあるため、川の堤防の文字数を減らすなどを検討している。

Q：地下鉄から見ると何という文字が書いてあるか分からない印象。花ではなく木を植えるという話も以前あったようだがどうなっているか。何と書いてある文字かわかると良い。あるいはベガルタのキャラクターなどにしてはどうか。

A：実行委員会で検討したことはあるが、委員の意向もあり、木は断念し、花のままである。文字が分かりやすくなるよう、改めて実行委員会で検討する。

・いずみのふるさと学事業

Q：応募者はどういった年齢層か。また、学校にも周知しているか。

A：応募者が 134 名おり、主に 40～80 代、特に多いのが 60～70 代。

学生にも周知はしており、地元に関心のある大学生が参加したいという意向もあったが、大学祭と重なったこともあり参加できなかった。今後日程を決めるうえで配慮したい。

Q：今後の展望として、探訪会の回数について課題意識はあるか。また、サポーターの方が、出前講座の形でどこかへ出向くことは可能か。

A：もともと探訪会は春・秋の 2 回行っていたが、R8 年度は、春に座学、秋のみ探訪会を行う。サポーター会独自で、仙台観光国際協会でのセミナーのメニューに登録しており、要望があれば対応している。

Q：泉の中でも歴史のある、七北田小や根白石小等でプレゼンや広報するのが効果的と思うが、実施しているか。

A：以前は小学校にも広報したことがあるが、あまり効果がなかった（参加があっても数組程度）と聞いている。サポーター会より、紙芝居で歴史を身近に感じられるようにしたいという案も出ており、今後関心を持てるような手段を探っていきたい。

Q：七北田小、根白石小のワークで取り入れられると郷土愛にもつながると思う。また、宮城学院女子大学に古文書を読めるサークルがあり、連携できると良いのではないか。

・泉区民文化祭

Q：なぜ若い方が事務局に入らないか、課題意識はあるか。

A：舞踊やカラオケを中心とした会というイメージで、若い方の団体が加入しにくいのかなと思う。現在はクラシックバレエの 2 団体以外は、高齢の団体がほとんど。以前は若いバンドの団体もあったが、現在は退会してしまっている。

Q：入場者数は 2 日間の合計か。また、諸事情により学生の参加ができなかったのは日程的な問題か。

A：観客数は 2 日間合計の人数。また、学生側の都合で一日だけの参加になってしまった。

Q：大郷町の道の駅で、泉青年会議所としての事業で、宮城大学のバンドや地元のダンスサークルに出演してもらった。出演者は「発表したくても発表する場がない」と思っていたようなので、泉区の高校の写真部や美術部などにアプローチすれば参加してもらえるのではないかな。また、若者を巻き込むためには、お客さんとしてだけではなく事業にも関わってもらうのが良いと思う。イベントを作るうえで参加者側の意見を取り入れるよう主催者側から仕掛けないと、お客さんの立場で終わり、次につながらないのでは。

Q：いまは外国人も多くなっている。各国の舞踊などを披露する機会もあれば、異文化交流にもなるのではないかな。

A：アプローチしたい気持ちはあるが、マンパワーの不足ため、対応を検討したい。

・泉区民ふるさとまつり

Q：有料観覧席について課題意識があるのは、周知面か、金額の設定か、見え方の問題か。

A：R6 年度から開始した有料観覧席事業については、全体的に周知が十分とは言えず、チケットの販売価格の設定についても、ほかの花火大会と比べると高い印象を持たれている可能性がある。今後、販売価格の見直しや席種の増について検討し、広報面では有料観覧席のメリットを打ち出していきたい。

Q：有料観覧席は当日販売もあるか。また、有料観覧席のチラシもあるか。

A：当日販売もある。昨年度はポスターを作成し、特設ページも商工会で開設した。メディアに取り上げていただくのが効果的だと感じている。

Q：花火が見えにくい席は割安にしてはどうか。

A：現地を確認の上、今後検討させていただく。

・七北田川クリーン運動事業

Q：参加記念品はもらっても嬉しくないという声も聞かれるが、その点はどう考えているか。また、元からあまりゴミも落ちていない地域であり、集めてみたらゴミ袋のほうが多い印象。このご時世、袋は必要最低限でお願いしたい。

A：参加記念品は宮城テレビからの協賛品であり、テレビ番組の周知も兼ねており、意向を確認しながら今後検討していく。今年度はゴミ袋の配布枚数を減らす予定で考えている。

Q：セーザイゲームとはどんな内容か。

A：カードゲームで、木材を売る側と買う側に分かれ、伐採した木がどのように流通していくのか、疑似体験できるもの。

Q：自然体験会が定員割れしていることについて、高校生の参加がなかったようだが、対象年齢を設けていたのか。

A：対象年齢は設けていない。

・泉ヶ岳悠・遊フェスティバル事業

Q：何かクマ対策を講じているか。

A：開催前には爆竹を鳴らし、クマの忌避剤の設置や高周波スピーカーを使用する予定。

Q：新しい出店者を入れていくと、既存の出店者が出ていくことになるかと思うが、その点についてどう考えているか。

A：メイン会場のオーエンス自然ふれあい館の市民キャンプ場にもまだ余裕はある状況。令和6年度から泉ヶ岳スキー場、泉ピークベース、スプリングバレー仙台泉もサテライト会場としてあるため、全体としても出店者を増やす余地がある。

Q：ニュースポーツフェスティバルや泉ヶ岳利活用推進市民会議なども、イベントに巻き込んでいけると良いのではないか。

A：令和8年度からニュースポーツフェスティバルとは連携する予定。

Q：渋滞対策として駐車場を増やしたことで、入場者数も増えたのか。泉中央の泉マルシェと同日だったと思うが、その点も併せてお聞かせいただきたい。

A：令和6年度の6,500人から令和7年度は10,400人と大幅に増えた。会場間と泉中央を結ぶシャトルバスの運行も初めて実施し、アクセスのしやすさも影響したと考える。泉マルシェと同日開催ではあったが、自然を楽しみたい方と都市部で楽しみたい方とのニーズが違うものと感じた。

・区民意識普及啓発事業

Q：「時代に合わせた事業内容の再検討」とは具体的にどのような対応をしたのか。

A：写真コンクールに関して、これまでは印刷した写真を提出する応募方法としていたが、今後はスマホでの電子フォームからも応募可能にする予定。発表の場に関しても、SNSで発信して、若い世代にも伝えていきたい。

Q：記念切手の制作費はどの部分にあたるのか。また、現在の売れ行きも聞きたい。

A：郵便局が制作しており、費用も郵便局が担っている。事業の予算としては、入賞者分のみ購入し、本人へお渡しした。売れ行きに関しては、300枚制作したうち100枚程度売れたと聞いている。郵便局側も、今後も記念切手を継続したいという話をいただいている。

Q：記念切手は、何かのイベントでも販売するのか。

A：基本的には泉区内の郵便局での販売となるが、先日行われた泉区まちづくり推進協議会総会の会場でも販売した。今後も機会があれば実施したい。

・大学連携地域づくり事業（いずみ絆プロジェクト支援事業）

Q：参加団体が減ったことで経費が減ったものがある中、調査委託料だけ微増している原因は何か。

A：令和 6 年度は各大学から一人出してもらって西部地区の魅力を探し情報発信していたが、令和 7 年度は手上げ方式で希望者を募り、まちづくりサークルを作るといった実施方法の変更があり増額したもの。

Q：まちづくり推進課は助成担当として活動を支えていると思うが、具体的な内容を見ると福祉部門の職員との連携も期待できるのではないか。

A：活動の必要に応じて、福祉部門とも繋げていきたい。

Q：発表会に参加したが、女性しかいなかったと思う。多面的な意見を取り入れるためにも男子学生も参加できるような事業であってほしい。

A：発表会には男子学生がいなかったが、実際の活動には男子学生もいる。

Q：発表会に参加したが、区の職員が言えることは限られていると思う。スタートの段階で、実際にまちづくりを行っている団体の方の助言があると、方向性やゴールの設定がより明確になると思う。

・青少年健全育成事業

Q：震災の記憶に関する学校への案内について、募集単位はどのようになっているのか。（学年単位・クラス単位・全校対象など）。

A：案内自体は学校に送っており、学校側で学年での実施を希望されている。希望によっては全校生徒でもクラス単位でも、実施可能である。

Q：今回は 3 校の実施だったが、希望によっては実施回数を増やすことも可能か。

A：予算上 3 校の実施が上限に思う。令和 7 年度は 3 校からの希望だったため、予算が不足することはなかった。現時点で 3 校以上の応募があった年はない。

Q：震災の記憶について、どの団体の方をお願いしているのか。各学校で話してもらう内容は同じか。

A：関上の記憶という団体の方をお願いしている。学校側の時間配分に応じて、話の内容等を変えてもらっている。

Q：少年の主張について、リモート開催にして良かったことや悪かったことは何か。

A：良い点は、全員が冷房の効いた場所で発表し、聞くことができること。悪い点とすれば、体育館で一堂に会したときと経験は薄れてしまう。近年の暑さには、対策を優先せざるを得ないと学校側も実行委員会としても考えている。

・地域子育て交流会

Q：自身の町内会でも子育て支援を行っているが、今と昔では子育ての考え方も違っているのを実感している。参加者の平均年齢はどのくらいか。

A：平均年齢は具体的に計算していない。参加者としては、主任児童委員や学校の校長先生、児童館の館長やスタッフなどで、幅広い年齢の方が参加されている。

Q：平均年齢が高くなると、現在子育てしている方の悩みとはかけ離れてしまう。現役世代の方のニーズや声を聞くのが役所の仕事ではないかと思う。

A：ご意見のとおり、現役世代の声を聞き活かしていきたい。

Q：様々な関係機関が交流会に参加しているが、顔の見える関係作りがニーズと考えているか。

A：ニーズは様々にあると思う。グループワークの時間に、近隣の関係機関同士で話し合う時間を設けているが、関係を作り始める段階のグループもあれば、関係性をステップアップしていこうとするグループも見受けられる。

Q：助成金なしでも実施されているのは、実施が決まっている事業なのか。

A：市内全区で実施している事業である。

Q：この手法で実施すること自体が目的に見えてしまう。この手法で生まれる効果は目的から遠くないか。関係機関の意識が高まった先の行動により保護者に還元されるものと思う。せめて保護者の直接の声を吸い上げて、有識者で話し合って現場にフィードバックするなら分かる。

A：関係機関が普段の活動で保護者から吸い上げた声を持ち寄った会議としている。お互いの得意なところを補い合って、今後の支援に役立てていきたいという趣旨で開催している。保護者の声をより活かしていけるよう、今後の開催方法を検討していきたい。